

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談(玉城町) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 8 月 22 日(月) 10 時 30 分～11 時 30 分

2. 対談場所

玉城町ふれあいホール 1 階 ふれあいホール
(度会郡玉城町勝田 4876 - 1)

3. 対談市町名

玉城町 町長(辻村 修一)

4. 対談項目

- 1 小学校教育における専門性の向上について
- 2 ポストサミットとしての地方創生の取組について

5 会議録

<あいさつ>

知 事

皆さん、おはようございます。きょうは、大変お忙しい中、辻村町長におかれましては、1 対 1 対談にお時間いただきましてありがとうございます。

まずは、先般 5 月 26 日、27 日に開催されました G 7 の伊勢志摩サミット、これにおきましては、玉城町の皆さんに多大な御尽力を賜りまして、無事故、大成功で終えることができました。改めて感謝申し上げたいと思います。

特にクリーンアップ活動や花いっぱい運動においては、町民の皆さんにも多数参加していただきましたし、また、ここに写真がありますが、私も参加させていただきましたけれども、神宮での植樹のときには玉城町の小学校 6 年生の子も参加をしてお手伝いをしてくれましたし、また、ジュニアサミットのときには、玉城わかば学園の子たちが太鼓でおもてなしをしてくれました。

それから、非常によかったと思っているのは、2 日目の首脳ワーキングランチ、ランチをしながら会議をするというのがありますが、そのワーキングランチのときには、私も何度も町長から頂きました玉城豚が使われまして、そういう食材の PR にもつながったということで、大変よかったなと思っています。

今後、サミットの成果を生かして、しっかりこれからも頑張っていきたいと思いますので、玉城町の皆さんの御協力をお願い申し上げたいと思います。

それから、「すごいやんかトーク」などでも大変お世話になった擬革紙(ぎかくし)、それが今年の 6 月 20 日におはらい町にその擬革紙を展示・販売する場所がオープンしたということで、私も大変感慨深く思います。「すごいやんかトーク」は私が知事に就任させていただいた平成 23 年度からスタートしているんですが、その一番最初の「すごいやんかトーク」がその擬革紙の皆さんとでありまして、そのときに、ぜひ商品化をしていきたいという大変熱い思いをグループの皆さんがおっしゃっておられましたので、その皆さんの思いがかなってこういう形ができたということは、私も大変うれしく思うところです。これからも、しっかり応援をしていきたいと思います。

ということで、今日は限られた時間ではありますが、重要な議題 2 つ、町長と有意義な時間をすごしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

今日はどうもありがとうございます。

玉城町長

知事には、朝早くからおいでいただきまして、厚くお礼を申し上げます。こうして1対1対談を度々開催いただいておりますし、本当にありがたく思っています。

知事から紹介があって会場の皆さんもお聞きいただいたとおり、本当に知事のお力でサミットが大成功で終って、そして、玉城の子どもたちも参加させていただいて、そして、志摩観光ホテルのシェフの方の舌に届いたといいますか、気に入っていただいて玉城豚を召し上がっていただいたこと、本当にうれしく思っています。

それから、もう一つ紹介いただきました、何といたしまして、「すごいやんかトーク」第1回目を玉城町で開催していただきました擬革紙さんが、6月20日に内宮のおはらい町にあります「かみなりや」さんでお店をオープンしていただいたということで、本当に知事から、普段からいろいろな面で御支援をいただいているおかげです。厚くお礼を申し上げます。

また、この機会に、最近の町の様子、それも知事のほうに大変御尽力いただいていることについて少しお礼を申し上げたいと思います。

特に、美和ロックさんが3月に、「錠前では美和ロックが世界一だ」とおっしゃっておられる工場全て整備になりまして本当にありがたく思っていますし、6月20日には、京セラドキュメントソリューションズさんが、カラートナーのプラントの7つ目の工場を、ここにそのときの調印式の写真が展示させていただいておりますが、本社の九鬼社長さんに来ていただいて、そして、県の企業誘致推進課の西口課長さんも同席していただいたわけですが、来年の3月にオープンするということで、何よりもうれしいのはマザー工場ということです。

美和ロックさんにしてもパナソニックさんにしても京セラさんにしても、大変そういう点で、知事のお力をいただいているおかげです、ありがたく思っています。

玉城町は、玉城だけが企業があつていいなということではなくて、近隣の市町の若い人たちに玉城で働いていただく、そういう役割を担っていけるまちづくりを進めていかねばと思っています。

さらに、総務省が7月13日に発表しましたが、全国でも人口がこの3年間増えているところがあると。最近、日本の人口はどんどん減少しており、特に一番大きな減少が前年対比30万人も減っているという報道がありました。そんな中で、総務省の、「全国で人口増の取組をしている珍しいところベスト11」の中に玉城町が入りましてその報道をしていただいたり、この間も朝日新聞にも記事が出たりということで、本当にありがたく思っています。

もう一つは、ついこの間ですが、8月10日に、吉仲部長さんに非常に骨を折っていただきまして、54年前、昭和37年に歴史的な大農業改革の基盤整備をしようという国のパイロット事業で手掛けたこの勝田地区のパイロット事業、それですとリーダーとして活躍した方が元気でおみえでしたので、県の農政に関わる職員の方とそして玉城の職員と一緒に、合同の研究会を立ち上げました。そして、この場であつての苦労話をお聞きして、そして、このことも官庁速報に出ました。こういう取組をやるんだと。つまり、県の職員さんと町の職員と一緒に、これからの農政をどうしていくのかという取組がスタートして、来年3月までやっていこうということになっています。

それから、もう一つは、三重県立看護大学の元学長の村本先生にもアドバイスをいただきまして、今年11月に津で全国看護学会がありますが、その中で玉城をテーマにして発表してもいいですかと村本さんが言ってくださいましたので、玉城を

テーマに発表していただくことになりました。楽しみにしています。

そんな取組も、知事の日ごろからの御尽力のおかげです。

直近のことを少し紹介させていただきました。これからもどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

<対談>

1 小学校教育における専門性の向上について

玉城町長

このことは、今まで知事といろいろ意見交換をさせていただいておりますが、やはり地域の将来を担う子どもたちにしっかりと基礎学力をつけていくというのは、私たちの使命だと思っております。

玉城もありがたいことに珍しく人口が減少しない今の状況ですが、やはりいずれ減少していく。地域の玉城のよさをずっと将来にわたって持続していくためには、やはり人づくりといいますか、子育てや教育、そういう面の充実が必要だろうと。インフラの部分で、先人の皆さん方が、冷暖房からあるいは天井の落下防止から環境整備は非常に整えていただいておりますから、問題は中身だと思っております。

そういった中で小学校教育における専門性の向上、具体的に申し上げますと、知事もいろいろ進めていただいて、認定をいただきました鈴鹿市、津市、玉城町、この3つの「英語コミュニケーション力向上事業」が3年目に入っています。それも、玉城の場合は1年生からやったらどうだということで進めていますが、授業参観をしますと、非常に子どもたちが楽しく学んでいる。そして、ALTの先生から、きちんとした発音も覚えながら、歌やダンスやクイズなどの工夫をした指導を実際やっていたというので、昨年も、県の教育委員の皆さんに御視察いただきました。

小学校は御承知のように1人の担任の先生が全教科を持つということになっていきますから準備や片付けに時間が要ると現場で聞きます。特に理科の学力テストが約3年に1回入るということもありますけど。

玉城町は、挨拶でも申し上げましたように、大企業さんが立地しています。知事も一緒に企業さんを回っていただいた機会がありましたが、「大企業に勤めたい」、せっかく玉城に優良企業があるのだから私たちも将来こんな企業に勤めたい」という子どももいますし、親御さんもそれを期待しています。企業さんと話をしますと、そういうところで興味のある子どもを育ててほしいというのは、これは当然ですから、将来、ものづくりに興味のあるような子どもが生まれるにはどうしたらいいかなと思いました。そうしたら、うまい具合に、中学校で理科を教えていた先生が出産で退職したという情報が入りましたので、その先生にお願いしまして、この4月から小学校で理科を教えてもらうことになりました。それも、子どもたちが非常に楽しんで学んでいる様子を私も授業参観してきました。

そういうことで、担任の先生の仕事の負担も軽減されるし、そして、担任の先生自身も、その専門の先生の様子を子どもたちと一緒に見ながら勉強ができると。いわゆる学習への進化が図れるという現状があるなど、私も参観して実感しました。

やはり小学校の先生はオールマイティーであるべきというふうなところもありますが、やはり専門性の高い教員が補助することで学習への理解がさらに深まると思っていますので、これからは、さらに音楽や図工、そういうところでも専門性の

高い先生の導入も考えています。

なぜかというと、やはり子どもたちが「勉強が楽しい」、「学校が楽しい」ということになれば元気も出てきますので、そういうことが一番基本にあるべきと思っていますので、何とかしていろいろな取組をしながら、子どもたちが元気で生き生きと毎日過ごせるような、そんな学校教育に取り組んでいきたいと思っています。それについて、知事の御見解を賜ればと思います。

知 事

ありがとうございます。今町長からもご紹介がありましたとおり、玉城町におかれましては、県の事業などにも積極的に活用していただいて、着実に成果を挙げていただいておりますので、本当に敬意を表したいと思います。

皆さんご存じだと思いますが、改めて申し上げますと、県の「英語コミュニケーション力向上事業」の指定地域として先進的な取組をやっていただいております。今年度から、玉城町、津市、鈴鹿市、それぞれのいい取組を、モデル校協議会をつくってスタートしています。

どういうことをやっているかというのは地元の方は御存じだと思いますが、改めて申し上げますと、最初はストーリースターが、例えば「サミット」などのテーマを与えて、それをチームでレゴブロックを使って「サミット」というテーマで英語でコミュニケーションしながらその物を作って、そして、どういう理由でその物を作ったのかというのを皆に英語でPRするというようなことを小学生などにやってもらうのです。このような取組を先進的に、これは全国で初めて県の教育委員会とレゴブロックで協定を結んで、やり始めたのですが、それをモデル的にこの玉城町でやってもらっているということです。

ですから、そういうことで着実に、今町長もおっしゃっていただいたように、子どもたちも楽しんでいし成果も確実に表れていると思っています。

そういうことをやっていくにあたって、小学校教員の専門性の向上、小学校教育における専門性の向上というのは、非常に重要だと思っています。町長おっしゃっていただいたような、本当に子どもたちが「わかる楽しさ」というのを感じてもらうために、先ほどの方のような理科や、あるいは英語、あるいは文化活動など、地域でさまざまに活躍されている方が、学校と連携してこういう取組に参画していただくことは大変いいことだと思いますので、ぜひこれからも進めていただきたいと思いますし、我々ができる協力があればしっかりしていきたいと思っています。

そういう補助をされる方の活用もしつつですが、やはり先生本人の専門性を高めるということも当然重要ですので、県では、そういう部分の研修にとりわけ力を入れています。英語につきましては、小学校で英語が教科化されますので、英語教育推進研修とか、小学校教師のための英語力アップ研修とか、延べ19講座を実施していきまして、玉城町からは平成27年度に1名参加していただいて、文部科学省が実施する「英語教育推進リーダー中央研修」にも参加してもらって、その方には、今年度、県が実施する「英語教育推進研修」の講師を、玉城町の教師の方に務めていただいております、大変先進的に玉城町のほうで取り組んでいただいております。

それから、理科につきましては、個人個人の能力を高めるのもさることながら、特にどの教科とは限りませんが、数学や理科については授業研究会というような先生同士の研究というのは非常に功を奏している部分がありますので、学校の中で理

数教育の中核的な役割を担うコア・サイエンス・ティーチャーの養成を現在していきまして、平成 24 年度から三重大学と協働でその養成拠点構築事業を実施しています。小学校では 11 市町、20 名がコア・サイエンス・ティーチャー認定教員として活動しています。その認定を受けた方々は、県の総合教育センターで「授業づくり小学校理科」や「小学校理科基礎実験研修」等の研修講座、子どもと保護者が参加する「ふれあい科学教室」などの講師を務めていきまして、地域の理科教育の推進を図る、そういう先頭に立っていただいています。

ご存知のとおり、昨日から国際地学オリンピックが三重県で開催されています。地学オリンピックというのは、数学や化学、生物など 7 つある科学オリンピックの 1 つで、今回で 10 回目です。日本で開催されるのは初めてです。それに三重県を選んでいただき、昨日、26 か国、100 数十名の高校生、一部中学生が混じっていますが、中高生の子たちが来て地学の筆記試験、それから、実技の研修に行ったり、あるいは、国を越えてチームをつくって討論をしたりしています。せっかく三重県で日本初の地学オリンピックが開催されましたので、この地学オリンピックをどう生かすのかというのを今、教育委員会で考えていますので、ぜひ、そういう理科教育などをさらに進めていきたいと思っております。

玉城町をはじめとして三重県はものづくりが発展した地域ですから、理科や科学に興味を持つ子どもたちが増えることは、地域での働く場を活性化していきますし、企業を誘致するときに、人材を確保できるかどうかとよく言われますので、やはりそういう人材の裾野がたくさんあるということは今後の企業誘致につながります。企業誘致につながれば働く場が確保されるわけですので、それが人口減少に歯止めをかけていく形になるということで、まさに人材育成が地方創生につながる、教育自体が地方創生につながると。冒頭町長がおっしゃられたとおりだと思っておりますので、県としても、今申し上げたような取組にしっかり力を入れていきたいと思っております。

玉城町長

ありがとうございます。知事、理科実験の映像を用意していますので、ちょっとご覧ください。

(映像鑑賞)

知 事

本当に楽しそうでしたね、子どもたち。すばらしい。

玉城町長

玉城はナシも特産です。それから、今の季節ですとブドウが採れます。富岡という伊勢に隣接している地域がナシの産地で「幸水」という品種、それから、もう一つはインターのところに勝田という地域があって、そこがブドウの産地で、「高墨」という品種、それを召し上がっていただこうと思っています。

< 試食 >

知 事

では、ナシからいきます。すみません、皆さん、いただきます。先にいただきます

す、すみません。

みずみずしい。幸水は全般的にシャリシャリして粒が荒い幸水が多いですが、この幸水はきめが細かいですね。すごくおいしい。豊かな感じのするナシですね。

甘いブドウです。おいしい。甘いけど、時々巨峰で濃厚すぎるブドウみたいなものがありますけど、これはちょうどさっぱりしてほどよいバランスのおいしさですね。

玉城町長

あとは、ほかには果物としては次郎柿ですね。まだこれからですけどね。それからイチゴですね。イチゴの種類は「かおり野」。

知 事

「かおり野」は三重県で研究したイチゴで、イチゴ特有の炭そ病という病気に強い品種なんです。今や、44 の道府県で栽培されていますので、三重県で研究したイチゴが全国に広まっていますので、ぜひ、皆さんもこの「かおり野」を食べていただいて。県外でも結構イチゴ狩りなどやっているところがありますが、「とちおとめ」のイチゴ狩りをやっているところと「かおり野」のイチゴ狩りをやっているところがあるので、ぜひ、皆さん、イチゴ狩りに行く場合には、「かおり野」のイチゴ狩りをやっているところに行ってくださいとありがたいと思いますのでよろしくお願いします。「かおり野」、おいしいですよ。

玉城町長

玉城インターのところにも、先ほど申しあげました勝田地区の組合として大きなイチゴハウスがありまして、皇太子さんにも御視察いただいた場所ですが、シーズンになりますと、大阪圏あたりからバスツアーのお客さんにお越しいただいています。最近では、次のテーマでもお話をさせていただくんですが、地域のつながりが希薄になっていることについて何か解決できる方法の中に、隣近所の人たちが高齢者も子どもたちも一緒になってイチゴ狩りをしてもらおうと、「あれはどこの子かな」と、イチゴ狩りの中でそのつながりがまた生まれてくる、そんなことがあります。これはいいことだなと。それで、他へもそんなPRをしているんです。イチゴ狩りにしましても柿狩りにしましても、何かこう一緒になってイベントに参加するという、そういうきっかけになると思っています。

知 事

すばらしい。

<対談>

2 ポストサミットとしての地方創生の取組について

玉城町長

知事、もう1つだけいろいろお話を聞かせていただければありがたいと思っています。

サミットの成功によって、この地域の皆さん方自身が、自分の住んでいる地域のよさを再認識することができたと思っています。それぞれの歴史や文化や自然などがよくわかり、それを大事にしていこうと。それは、その地域の人たちもそうです。

が、「すごいな」と一昨日思ったのは、オリンピックがもう閉会しますよね。日本は史上最高の 41 のメダルを取りました。そして、かつて奥さんがやってみえたシンクロナイズドスイミングは銅メダルを取ったということですよね。そして、なんとあの曲が「アマテラス」、「輝く夜明け」でしたね。すごいな、アマテラスというのは御承知のように皇大神宮ですから、何かこうサミットからつながっているなという気がして、東京オリンピックにもずっとそれがうまくつながっていくなという気がしています。

知事が冒頭お話されたように、サミットの成功はもちろん知事のお力はじめ県の関係者の皆さんもですけど、やはり地域の皆さん方の一体感、「これは協力しなければ」ということでクリーンアップ活動には 6 万人の方、100 日前からやられたとか、あるいは花いっぱい運動を盛んにされたということ、本当に「これを成功させるために」という心のレガシーを残してもらったなど、私はそんなふうに思っています。

もう一つは、「すごいやんかトーク」の開催件数は平成 27 年度で 127 だそうですね。その「すごいやんかトーク」が開催された市町では、NPO 法人などいろんな団体のところに知事が直接行っていただく。そのことで、そこで活動している方々が「知事が来てくれたから、もう一度頑張ってみてやらなくては」ということで、ものすごく元気が出て自分たちの活動の見直しなどをするという、非常にいい取組をしていただいているなど思っています。

やはり自分たちの地域は自分たちでよくしていくべきだと。これが基本で、それがあって市や町や地域がよくなってきたのですが、しかし、現状は少子高齢化で御承知のように地方の現場は非常に厳しいものがあります。つまり、地域のコミュニティが崩れていることです。

そのような中、玉城の課題としては、他所から人が入ってきてくれるのですが、ところが自治区に加入されないんです。自治区に入らない、自由ですから。自治区に加入されないということは、地域の人同士のつながりが当然なくなるわけです。いつつながりができるのかということ、子どもさんができて保育所へお子さんが通うようになってから、お母さんお父さん同士のつながりができる。それはそれでいいのですが、それ以外のいろんな冠婚葬祭や伝統行事などが段々なくなってきています。そういうふうな中で人間関係が水臭くなってきているというのが、今の玉城の現状です。

だから、そういう中で自助だ、共助だ、災害だ、とそのときにではどうしていくのかと。普段つながりが無いのに、何か起こったときだけ助け合いませんか。放っておきはしませんけども、やはりひとつ違うわけですよね。

ですから、そういうことで、御承知のように東南海地震は 30 年の間に 80% の確立で起こるといふ学者の先生のお話もあるわけですから、なんとかして地域のそういうつながりをもっと大事にする、そういうことを町として力を入れていくことが要るのではないかと。国も、総務省で、こうした地域運営組織の考え方のようなものを研究していただく動きが出てきたようですが、町としても、ありがたいことに、今までずっと先人の方々が良いまちづくりをしてきたんですが、現実には玉城だけではなく非常に希薄な部分がありますから、それをなんとかしてもう一度取り戻して、冒頭お話をさせていただきましたように、知事が直接働きかけてみえる「すごいやんかトーク」とか、あるいは、サミットを盛り上げていこうというような地域の一体感、そういうものを、これからもどのように大事にして、そして“おらが町”

をよくしていくかというふうなことが、うまく次の世代につながっていくような動きをしていくことが今必要ではないかと思っています。そういうところでの知事のお考えをお聞かせいただければと思います。

知 事

ありがとうございます。まずは、「サミット後、どういうことをやるのですか」ということについては、サミットで上がった知名度を生かして、まず1つは「人と事業を呼び込む」という形で、今回、世界最高峰の国際会議をやったわけですので、例えば国際会議、MICEと言われるいろいろな展示会やインセンティブ旅行、学会などを呼んでくると、そういうことに力を入れていこうと思います。

あとは観光、特に外国人観光客にたくさん来てもらおうと。去年6月にサミットが決まって、去年7月から12月の外国人観光客の対前年伸び率は、三重県が全国1位になりました。平成27年度の通年でも全国2位になっています。今年は1月から5月分までしかまだ出ていませんが、1月から5月でも対前年伸び率全国4位ということですし、この1月から5月は、外国人だけではなくて日本人も含めた全ての宿泊者数の対前年伸び率で全国1位になっています。そのように人を呼び込んでくる。実際に、サミット終わってからも、賢島、伊勢を中心に観光客が約3割増になっているところが多く非常に増えてきていますから、そういう人たちに三重県を周遊してもらおうというようなことをやっていこうということです。

それから、玉城豚をはじめとして食材が非常に注目されました。少なくとも269の品目が食材に使われていますので、それをいろんなところに販路拡大し、「サミットで使われました」ということで食でいろいろ売り込んでいこうと思っています。

また、このサミットのテーマと関係があるような国際フォーラムなどをやっていこうということで、この9月には女性の国際フォーラムをやる予定ですし、〇〇サミットをたくさんやろうということで「海ごみサミット」とか、あるいは、11月には「農福連携サミット」というのもやりますし、いろんなことで人を呼び込んでいこうとしています。

それから、やはり大事なことは、先ほど町長もおっしゃっていただいた「心のレガシー」のような形で、とりわけ次世代の人たちに「サミットがあつてよかった」というふうに、すぐには効果はないと思いますが、サミットがきっかけで自分の将来を決める一助になったと、子どもたちが進学や就職をするとき、あるいはチャレンジしてもう1回頑張ろうと思ったときに、「あのときの経験が」というふうになればと思っていますので、いろんな教育面で次世代の育成をしっかりやっていきたいと思っています。

ちょうど植樹のシーンがあるのでエピソードを少し紹介します。いろいろなところでこの話をしていますので聞いたことがある方いらっしゃるかもしれませんが、この植樹は、玉城町の子どもをはじめとして度会郡4町と伊勢市、鳥羽市、志摩市の3市、全部で7つの自治体の小学校6年生、1人だけ5年生がいましたが、20人の子どもたちにスコップを首脳に渡すということをやってもらいました。スコップを渡すときに首脳たちが子どもたちに何か話しかけていたのですが、何を話しかけているのかと思って気になったので、終わってから聞いたのです。安倍総理は日本人ですから、安倍総理以外の首脳がどんなことを話しかけたのか、子どもたちに聞いてみたのです。皆さんならなんて話しかけますか？初めて出会った小学生に会ったとき、「何年生ですか？」と聞くことが多くないですか。あるいは、玉城町の

小学生とわかっていたら、「どこの小学校ですか？」と聞くことが多いのではないかと思います。結果、首脳の方々は何と聞いたかと言いますと、「あなたの名前はなんですか？」と聞いたそうです。多分、明日の朝になったらその名前は忘れていられるかもしれませんが、日本人の私たちは学年とか学校とかその属性みたいなことをすぐ聞いてしまいますが、首脳はいきなり名前を聞くわけですね。名前聞かれた方がうれしいですよ。自分のアイデンティティというか自分の個性そのものですから。だから、そういう人との接し方というかコミュニケーションの取り方は、このリーダーたちを間近で見ていると非常に参考になりましたし、そういうことが、先ほど「つながりが希薄になってきた」と町長がおっしゃっていただいた、コミュニケーションのあり方として、相手のアイデンティティとか個性などを尊重して認め合っていくコミュニケーションがすごく大事ではないかと改めて思いました。

そこで先ほどの地域運営組織の話ですが、まさに今、玉城町で先駆的に取り組んでいただいていることは県の考え方とも合致しています。この4月からスタートしました「みえ県民力ビジョン 第2次行動計画」、自治体は大体、総合計画を作りますが、その中の基本的なコンセプトに「新しい豊かさ」というのを入れています。「新しい豊かさ」というのは、今から言う3つの豊かさを全て引き上げていくというのが「新しい豊かさ」と考えています。

1つは「心の豊かさ」。これが一番大事ですね。精神的な豊かさ。2つ目は「経済的な豊かさ」。やはり一定の収入がないと生活していけませんし、働く場が必要ということもあるので経済的豊かさ。ここまではよくある話ですが、今回、3つ目に新しく定義したのが「つながりの豊かさ」です。今までだったら、家族や地域のつながりが当たり前のように思っていたんですが、今の時代、先ほど町長からもあったように、つながりが希薄化していて、つながりがあること自体が、あるいは、つながりを深くしていくこと自体が豊かなことなんだ、幸せなことなんだ、大事なことなんだというふうに改めて捉えて、心の豊かさ、経済的な豊かさ、つながりの豊かさ、この3つを同時に全部引き上げるような取組をしていこうということ、県の総合計画の新しいコンセプトとして書いていますので、それを果たしていただく先駆的な取組を今玉城町でやっていただいていますから、この玉城町での取組の真価を、我々も「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」などもありますし、いろいろなところで情報共有をさせていただいて取組をしていきたいと思っています。

特に一人親家庭や生活困窮者世帯など厳しい状況にいる人たちに対して、よりアプローチをしてつながりをもっていくというのはすごく大事なことだと思っていますので、私どももしっかり玉城町さんと連携して、また、玉城町の皆さんの取組を教えてもらいながら、全県に広がっていくような形で頑張っていきたいと思えます。

玉城町長

ありがとうございます。知事のいろいろなお話を聞かせていただいてありがとうございました。

玉城町は農村地域ですが、集落の皆さん方があるいは農家も畜産家も一緒になって、自分たちの地域の農地を守っていこうと、あるいは生態系を守っていこう、環境をよくしていこうという取組があって、県からも表彰されています。

一昨年もここで全国フォーラムが開催されてまして、熊本、大分、隣の湯布院の「玉の湯」の女将さんも来ていただき、いろいろな発表もしていただきました。地域の

皆さん方が、今申し上げているように、農村あるいは農地の持つ多面的機能の良さをつないでいきたいという具体的な活動が生まれてきていることはありがたいと思っていますし、他の面でも、いろいろ県のアドバイスをいただきながら、この前の「すごいやんかトーク」でもご出演いただきましたが、認知症サポーターさくらの方々など、そういう地域包括ケアの考え方も出されておりますし、何とかしているところなどで行政と一緒に協働して協創して町づくりをしていくということを考えていますので、どうぞこれからも御指導いただきますようお願いいたします。ありがとうございます。

知 事

先ほど、最後に町長おっしゃっていただいた、認知症のことで言うのを忘れていましたが、本当に玉城町は認知症の取組を積極的にやっていただいています。この10月に三重県で「認知症サミット」、県内外の認知症について研究している皆さんに一堂に集まっていただいて、認知症についていろいろな取組をみんなで情報共有していこうというサミットをやっていると思っています。

これは、元々2013年にイギリスのロック・アーンというところで行われたG7のサミットで、初めて首脳宣言に「認知症の対策強化」というのが盛り込まれました。その翌年2014年、田村憲久厚生労働大臣のときに、この日本で閣僚級の人たちが集まって「認知症サミット」が開かれたのですが、去年2015年は認知症についての国際会議がありませんでした。せっかく伊勢志摩サミットをやって、今回の首脳宣言にも「認知症の対策強化」が入っていますので、これはもう三重県でやろうと。閣僚級の皆さんに集まってもらうというのは大変なので、研究者の皆さんや行政関係者などに国際的に集まってもらって、10月14、15日だったと思いますが開催したいと思っていますので、また三重県の基礎自治体の皆さんの取組などもいろいろ紹介しながらやっていきたいと思っていますし、そこで得た知見をまた玉城町さんはじめいろいろな市町にフィードバックさせていただいて、認知症の取組が前に進むようにしていきたいと思っていますので、また御協力をよろしくお願いしたいと思います。

玉城町長

その場で、玉城町の今の取組を発表させてもらうことになっているのです。その後、三重大学の富本先生もお越しいただいて打ち合わせすることになっています。

知 事

ありがとうございます。ぜひ、もうどんどん前へ出て行ってください。

<閉 会>

知 事

辻村町長、今日はありがとうございました。また、玉城町の皆さん、そして、傍聴に来ていただいた皆さんも本当にありがとうございました。

今日も大変有意義な対談でありましたし、とりわけ、人口が3年連続で上昇しているこの玉城町らしい、次世代や地域のつながり、そういう有意義な対談であったと思います。

これからも、県もしっかり連携して取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞ

よろしくお願ひします。

今日はどうもありがとうございました。